

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成30年 2月 2日 更新

事務事業名		地球温暖化防止実行計画実施事業						☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4 生活環境の健康						所属部	総務部	課長名	岩田建一
	施策	22 地球温暖化防止対策の推進						所属課	総務課	担当者名	荒牧聡
	施策の柱	64 地球温暖化防止対策の推進						所属班	総務・男女共同参画班	(内線)	1216
予算科目		会計一般	款2	項1	目1	事業連番10183	根拠法令	地球温暖化対策の推進に関する法律(第20条、21条)		成果優先度評価結果	①
										コスト削減優先度評価結果	⑥
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始						事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度		

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	平成11年4月に地球温暖化防止対策の推進に関する法律が施行され、各市町村地球温暖化防止行動実行計画の策定が義務付けられた。旧西合志町が平成14年3月、旧合志町が平成16年3月に地球温暖化防止実行計画書を策定し、取り組んできた。平成18年2月に両町が合併したので本計画を新たに策定するため開始した。平成18～20年度にかけ事業所の施設の状況を確認し、地球温暖化防止実行計画書の取り組み内容を協議し、H21年2月10日合志市地球温暖化防止実行計画書を策定した。計画は、平成21年度から25年度までの5年間の目的目標期間と定め、環境保全活動を取り組めます。計画の推進及び進行管理については、環境マネジメントシステムにより自主的に進めてきた。5年後の削減目的目標は平成19年度対比△6%となっている。取り組みは、計画書策定の前年度(平成19年度)各対象施設の燃料等エネルギー使用量をCO2に換算し、その数値を基準として計画年度ごとのCO2換算数値との比較を行い、温室効果ガス排出削減目的目標達成状況を確認した。また、環境保全活動の実施状況調査を行い、毎年度の取組み計画を見直し、実施した。平成26年9月に合志市地球温暖化防止実行計画書を策定した。
【業務の流れ】	4月に、前年度の各施設の温室効果ガス(CO2)総排出量及び前年度の取組み活動の実施状況を調査した。5月に、前年度のまとめと実績評価を行い、6月に、平成26年度から30年度までの計画検討を行い決定した。10月から新年度の取組み活動を実施する。住民啓発と職員の意識向上のため今年度も西合志庁舎の壁面緑化を行なっていたが、合志庁舎の増築方針が示され西合志庁舎の活用が定まらないため、壁面緑化は平成28年からは中止している。
【主な予算費目】	8報償費、11需用費1消耗品費、
【意見や要望】	特になし

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動)(DO) 前年度の各施設の温室効果ガス(CO2)総排出量を各課に依頼し調査を実施し、H25年度温室効果ガス(CO2)の総排出量をまとめた。平成25年度は原油換算では前年比1.49%の減となったが、CO2換算では係数の変更により対前年比27.7%の増となった。H25年度温室効果ガス(CO2)排出量の実績報告、H25年度計画の取組みについて周知を行ったことにより、職員及び市民の節電意識を高めることが出来た。		29年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 地球温暖化防止実行計画の温室効果ガス削減の取組み及び地球温暖化対策地方公共団体実行計画(事務事業編)の策定※H20年6月に「地球温暖化対策の推進に関する法律」が改正され地方公共団体に対し「地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編)」の策定(環境衛生課担当)と「同(事務事業編)」の策定(市長部局その他2部局担当)の策定が義務付けられた。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 会議回数	回	西合志庁舎壁面緑化中止に係る消耗品費の減
イ 調査回数	回	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
市の施設	個	→ ア 計画書の数
	%	→ イ 温室効果ガス削減目的目標数値
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
目的目標をクリアできる	%	→ ア 課題の周知率
	%	→ イ 温室効果ガス削減実績比率
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
1		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度実績(決算)	27年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	28年度実績(決算)	29年度目標(当初予算)	30年度予定	31年度見込	32年度見込
① 活動指標	ア 回		1	1	3	0	3	3	1	1
	イ 回		1	1	1	1	1	1	1	1
② 対象指標	ア 個		1	1	1	1	1	1	1	1
	イ %		△1.2	△1.2	△1.2	△1.2	△1.2	△1.2	△1.2	△1.2
③ 成果指標	ア %		100	100	100	100	100	100	100	100
	イ %		98.8	100.3	96.4	99.6	95.2	94	100	100
投資入費量	事業内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	人件費	一般財源	千円	8	10			17	15	15
		(A) 事業費計	千円	8	10	0	0	17	15	15
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正職員従事人数	人	5	2	10	3	10	10	10
人件費	延べ業務時間	時間	134	25	0	65	0	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	533	92	0	0	0	0	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	541	102	0	0	17	15	15

事務事業名	地球温暖化防止実行計画実施事業	所属部	総務部	所属課	総務課
-------	-----------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【理由】 CO2の排出係数の変動で増加となったため。
	②29年度目標達成見込み	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☒ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 H21年8月に職員教育を実施し、課題意識の共有を図り、10月から全職員へ周知環境に配慮した活動を始めましたが、H20年度で2.6%の増となり、H22年度の削減目標数値と累計すると5%の削減目標となり25年までの5年間の削減目標6%に匹敵するため単年度の達成は無理かと思われるため、基準年度（H19）の数値まで削減していきたい。また、節電の意識は職員に広がってきているが、排出係数が変動するため、削減に至っていない。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 年度ごとに計画書の見直しを行うので成果の向上の余地はある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似する目的の事務事業が他にない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 エネルギー管理者の講習には人事班の研修参加の予算を充てている。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事務量としては、環境マネジメントで年度ごとに計画書を見直すこととしているので、計画書策定時と同じ事務量が発生する。また、温対法の改正に伴う「地球温暖化対策地方公共団体実行計画（事務事業編）」の策定があるので事務量は逆に増大する。また、国のエネルギー政策が明確でないため県の方針、市の方針が立てづらい。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 関係法に基づく、地球温暖化防止対策の実施事業であり、市民への模範となる事業であるので、公平公正であると考え。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 本事業については、地方公共団体に義務付けられた事業であるため住民や地域に移行できない。

3 評価結果の総括 (CHECK)

成果指標の温室効果ガス削減実績比率については27.7%の増となった。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							